

北海道知床半島産の紅藻アカバ属 *Neodilsea* の一種を新種チデレアカバ (*N. crispata* sp. nov.) として報告する。本種は初夏から秋にかけて低潮線付近から漸深帯上部に生育し、体は線形、あるいは広線形をなす。よく生長したものは体の縁辺部が不規則に縮れる。この2つの形質は他のアカバ属の種に見られないものである。また室蘭産のアカバ (*N. yendoana* Tokida) およびマルバアカバ (*N. tenuipes* Yamada et Mikami) と本種を培養により比較し、アカバ属の分類学的形質について考察した。すなわち、上記の2つの形質は培養個体においても顕著に発現し、本種に特異な形質であることが実験的に明らかにされた。

○高等植物分布資料 (79) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (79)

ミズスギ *Lycopodium cernuum* L. ミズスギは日本の暖地には普通であるが、中部日本から北海道にかけて、ブナ林帯の温泉地熱地帯に点々と分布することが知られている。箱根大湧谷のものは古くから知られて来たが、関東大震災の時に地熱が低下し絶滅した。我々は1972年11月に硫気孔地域の植生調査の途次、ミズスギを箱根湯ノ花沢の噴気孔周辺でかなり豊富に、しかも旺盛に生育しているを見出した。

本種は北海道登別温泉、岩手県滝ノ上温泉、長野県中房温泉などにも知られ、高橋秀男氏によると高瀬川の上流域にも産するという。このうち滝ノ上温泉のものは、1972年8月の所見では絶滅寸前である。
(松浦正郎、大場達之)

口初島住彦：琉球植物誌 (Flora of the Ryukyus) pp. xi, 940, pl. 30, B5 版, 1971, ca. ¥12,600 沖縄生物研究会発行。初島教授は多年鹿児島大学にあってこの大著を完成した。原稿は既に1968年に一応完成したが、印刷の都合で出版がおくれたので、その後の研究を考慮して追加と訂正分 pp. 25 を巻末に加えた。別に正誤表 3 pp. もある。地域は奄美群島を含み、シダ植物・顕花植物の科・属・種の記載、産地、検索表がくわしく、この地のフロラの全般が新しい光の下に集約された。図版には初島教授の新種、外国にあるタイプの標本の写真、生植物のカラー写真も含まれている。巻頭には地誌・気候・植物地理 (各島群別および近隣地域との比較) が概説され、琉球植物探検年表、主要な採集者 80 名の肖像写真、文献目録、用語解説もある。著者は本書もなお予報的のものであるとし、更に今後の検討を期待しているが、このように広い範囲に亘り、かつ不連続に分布する島群の植物誌をまとめられた諸困難を思い、長年の努力に深い敬意を払うものである。
(津山 尚)